



釈尊のことば

雲
晴

お盆号

「雲 晴」第三十九号

令和三年七月一日発行

貞林院瑞正寺
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五-四六-五
電話(03)3627-3415 FAX(03)5699-5915

法句経に学ぶ 8

神田寺住職 友松浩志

過ぎたるにも
来らんにも
はた 現在^{いま}にも

いささかの

我有^{わがもの}
もつこと
所有^{もつわざ}なく

取^{まつわり}なし

われかかる人を

婆羅門とよばん

法句経 四二一

「自分」とか「個」とかが尊重される時代ですが、「自分だけ」で成り立っているものなんてありません。みんな、誰かにどこかで支えられて生きています。一人で生きているように見える人でも、誰かがつくつたものを食べ、誰かが運んだものを買っています。すべてのものに、「自分」とか「我」とかないことを知り、ともに生きる人に感謝し、とらわれなく生きる人こそ、お釈迦さまの弟子にふさわしい、「さとり」も入口に立つ人と言われるのです。

昔の古い写真、そこに写っている友人、親戚の人など、どの人とも今は行き来があります。でも、あんなことがあつた、あんな所に行つたと思いつ出すと、すべてがその人たちとつくつた思い出だつたことが分かります。過ぎて行つた過去にも、これから訪れる未来にも、「自分だけ」のものはありません。それはいつも、誰かとつくつたもの、つくるものです。よく考えれば、「今」この現在も「自分ひとり」でつくつてゐるのではないかせん。

部屋を整理していく、古い紙箱を開けると、なつかしい写真がたくさん出てきました。昔の出来事が、頭の中によみがえつて、あれこれ思い出しながら、しばらく時がとまつてしましました。

書へ
いざな
の誘い
「盡世甘美以供養
衆僧救倒懸苦」
丁亥夏日金會信何祥書

盡世甘美以供養
衆僧救倒懸苦

え書きに「丁亥夏日益會信阿拝書」とあるように先代錦洞が平成十九年の夏、孟蘭盆会に制作したものです。「信阿拝書」は先代の僧名の一部である阿号が「信阿」であり「拝書」は拝むような敬虔な気持ちで書かせて

孟蘭盆經にはお釈迦さまの弟子である目蓮尊者の母親が餓鬼の苦しみに喘ぐのを釈尊からの教え（大勢の僧侶に施しをする）

世界を一変させましたが、お盆を迎えるあらためて施しの精神を見直す事によつて共にこの困難を乗り越えていきたいのです。

内大臣久我通親の養子となりました。十四歳で出家し弟子となりました。天台宗の教えにも精通し、多くの著作を残されています。その門流は浄土宗西山派として現在まで続いています。

源智上人（一一八三～一二三八）
平師盛の子ともいわれている人物です。源氏から逃れるためか、十三歳のときに法然上人のもとに入り、出家しました。その後、法然上人に常に付き従い教えを受けました。法然上人没後は京都を中心に精力的に活動されました。特筆すべきは、法然上人が往生された年の十二月に阿弥陀如来像を造立されたことです。（法然上人のご命日は一月二十五日）その阿弥陀如来像のお身体の中には、多くの文書が納めら

れていました。そのほとんどは仏と縁を結ぼうという「結縁交名帳」で、多くの名前が書き連ねられています。その数四万六千人、遠くは蝦夷（北海道）にまで及んでいます。法然上人の教えの広まりを顯す資料としても、とても貴重なものです。車も電車もない時代に日本全国に広まり、わずか一年程の間にこれだけの人数の記名が集まるほど法然上人の教えは人々の心に響いていたのでした。

この他にも長西上人や親鸞上人など大勢の弟子がいましたが、浄土宗の正流を注がれたのは、聖光上人です。

次号では浄土宗二祖聖光上人・三祖良忠上人についてご紹介します。

けるのではないでしようか。
そもそもパラドックスの語源は「定説に逆らうもの」という意味があり、正に賑やかな「蝉の声」を歌いながら、一層の静けさや、何か現実離れた世界を人の心に伝えた句と言えましょう。

我が法然上人は、私たちが“南無阿弥陀仏”的一行、つまりすべての者が必ず阿弥陀仏の本願力のお念佛によつて、仏とならさせていただく救済の仏教をお勧めくださいました。梅雨雲が吹き払われて夏の青空が広がるように、お念佛の本願力により、蝉の鳴きしきるこの現実世界の向こうに、安樂な淨土が姿を現すことでしよう。一層のお念佛精進に努めま

(総本山知恩院布教師会ホームページより)

七月・八月のお盆法要

本年のお盆法要是次のとおり行いますが、新型コロナウイルス感染予防のため、五月の施餓鬼会と同様に本堂内での法要はありません。

毎年お参り頂いている月のお盆にそれぞれご来山頂きお参り下さい。

なお当日は本堂前でお焼香ができますので、その際にお申し込み頂いたお塔婆の受け渡しもいたします。

○七月お盆法要

七月十一日（日）午後二時より

○八月お盆法要

八月十三日（金）午後三時より

本年の八月盆「お棚経参り」は中止といたします。

*八月のお盆は毎年お棚経参りにお伺いしており、本年の地区は地元大下・仲町の予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため本年に限り中止といたします。

なお新盆のお宅についてはご希望があればお伺い致しますのでお早めに寺までご連絡下さい。

令和三年施餓鬼法要の報告

毎年五月十四日は当山の施餓鬼法要ですが、今年も残念ながら新型コロナウイルスの影響により例年のような法要は出来ませんでした。

お申し込み頂きましたお塔婆につきましては、副住職とともに早朝に施餓鬼回向を済ませ、それのお墓にお供えさせて頂きました。

来年は檀信徒の皆さんとともに本堂にて法要ができる事を心より願っております。



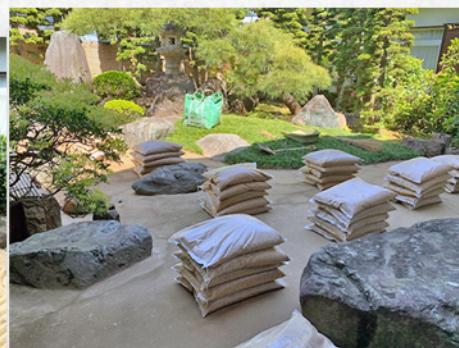
「今年も副住職と二人で法要を勤めました」

「客殿前の庭園を改修」

本年四月に客殿から見える庭園の改修を行いました。細かい砂利を敷き詰め石庭のようになっていますが、枯れ



「滋賀県産の砂利をこれまでより厚めに敷き詰めました」



「従来の砂利を取り除き、下地の清掃を実施」